

コロナ禍のほっとニュース特集

記憶の中の旅物語

委員 四方 公子

コロナやオミクロンと環境が大きく変わり、日常生活にも影響しています。体力も相応に急降下して長時間の制作も段取りを考えて、と言った具合です。

海外旅行をしてその風景をモチーフにして来ましたが、いつも一緒に旅した夫も昨年亡くなり、旅先で写真に夢中になる私を迷子にならないか遠くで見守っていてくれました。

家の中も色々思い出すと辛いです。記憶の中の旅物語として一作ずつ残していけたらと思います。



アンコールワット遺跡群をモチーフに

そして完成して出展する日にお父さん今年はこちらを描きましたよ！と見せてあげられる

ようにコツコツと続けたいと思います。

今年の記憶の中の旅物語が第五作として無事完成します様に。高齢者の感染にならない様に会員の皆様のご健康とご多幸を祈ります。

札幌からの出品

会員 前田 重昭



旅の途中で

北海道には千数百年という建造物(寺)が有りません。日本美術を学ぶ為に、新潟までフェリーで絵は車に積み、初めて出品した東京都美術館はガラーンとしてました。この時に故中尾会長に会えました。最近直接搬入が多く台車がなくて困るという事に成っています。以前は、東京から京都、奈良、高野山、さらに姫路、岡山県の大原美術館、四国を通って東京に戻りましたが、眠けが強くて危険ですので今は、東京ま

でとされています。

新型コロナにより出品の仕方を変えなければならなくなりまして。フェリーからの自家用車での出品は止めます。絵の大きさは百号くらいで新たな作品を、出品し続けます。



世界遺産 高野山を散策

「中川一政」のこと

委員 早田 美智子

久しぶりに画家中川一政の随筆集を開いた。「薔薇」や「向日葵」の鮮やかな口絵の後に、刺激的な言葉が続く。

一画は芸術ではない。画の中に呼吸し、うごめいているものが芸術なのだー

大作「駒ヶ岳」を初めて観た時の驚きを思い出す。空と太陽と山と



【駒ヶ岳】1982年 真鶴町立中川一政美術館 蔵

、全てがうねる様に動いている。画は生きていなければならぬ、の言葉そのものだった。それにしても、同じものと同じ構図で延々描き続ける「不思議(情熱)」。真鶴の「福浦港」で二〇年、「駒ヶ岳」が一五年だという。描いても描いても描き足りないのか、と思っていたら、よい画は同じモチーフを描いてもみな別の画に見える。悪い画は違ったものを描いてもみな同じに見えるーとあった。

「コロナ自粛」はまだまだ続くだろうが真鶴の「中川一政美術館」に行つて来ようと思う。新しい出会いの予感がする。